

# 自民党国会議員の方々へ

自民党の国会議員の方々に問いたい。武井俊輔氏をどうするおつもりか。

今回の武井氏についての問題は皆様耳に入っていることと思う。ではなぜ、これほどもめているのか。党本部と県連との関係もあろう。武井氏と県連との関係もあろう。いろいろあるだろうが、一番の問題は今回の問題が「誰にでもわかる」問題であるということにある。政治家と言えど、きものの賄賂だのなんだのは、正直、一般人にとっては義憤にがられ、こすすれ、結局はよくわからないものだ。何が裏であったのだろう、と思われるだけで、どこどこがどうつながつてという事を完璧に理解している人はいないと言ってよい。一般人にはわからないブラックボックスがそこにはある。だが当て逃げは違う。車検切れも自賠責保険未加入も違う。非常に身近で、誰にでもわかる問題だ。すなわち誰でもがその是非善悪を判断できるのである。ほとんどの社会人は自分たちも車検や自賠責保険に加入しその手続きを自ら行っているのである。「事の始まりから終わりまでを理解できている」から、世論の反発が大きいのだ。誰だつて「車検の案内は販売店から来るよね。」とか「自賠責に入っていないとやばいよな。」とか「普通三十センチ近い傷が車体につけば気づくだろう。」と思うのだ。そこにブラックボックスはなく、ただ武井のいい加減さや卑怯さだけが浮き彫りになっているのだ。だから、収束しないのだ。

これを対岸の火事と思つてはいけない。なぜなら、党本部が公募を拒否しているからだ。これは党本部マターとなつてしまつており、そこで最悪の決断をしてしまつているからだ。そうになると野党はこれを一斉に非難するだろう。非難の矛先は宮崎県連ではない。党本部だ。自民党の衆院選にのぞむ全議員にとつてのアキレス腱となるのだ。いったい全国でどれくらいの比例票を失うことになるのかおわかりか。

軽く振り返つてみよう。まずは当て逃げである。タイヤにぶつかつて気づかないのならばまだわかるが、質量八十キロを超えるであろう物体が車体にぶつかつておきながら、成人男性が二人も乗つていて気づかないなど、誰が信じようか。普通は小石がはねても気づくものである。それとも皆様方国会議員の方は車内で大音量で音楽でもかけているのかな？多くは電話中が二、三ノスを見ているか、ペーパーを読んでいるか、ではないだろうか。皆さんの選挙区に戻つて意見を聞いてみればよい。大の大人が二人とも気づかぬなど誰も信じはすまい。だいたい、追いかけて後の対応も記事を読む限り最低レベルの対応である。ドラレコの見方が分からない、などと言つたそうだが、ああいうものは説明書がなくともだいたい操作できるようにできているものである。国会議員の「品位」ではなく「知性」を疑われようというものだ。

車検切れと自賠責保険未加入についても、評判は散々である。切れてすぐならまだしも何カ月も経過しており、「うつかり」では済まされない。しかも、本人は宮崎で「すでに次の車は購

入済みで東京に来ているのです。」と説明している。これは致命的である。もしこの言い訳が嘘であれば、当然嘘の説明をしたのであるから、離党勧告モノである。でなければ銀座会食の三議員がうかばれない。そしてもしこの言い訳が本当であれば、なぜその「次の車」とやらを使わずわざわざ車検の切れている車を使っているのか、となる。理由は簡単。その「次の車」とやらも車検を通していないからである。通していたのならなぜ使わなかったかきいてみたいものだ。あと、どうやって東京まだ運んだのかな？

加えて二年前の飲酒運転同乗もある。基準値の三倍の飲酒量で気づかぬはずはない、と皆思っている。しかもこれも当て逃げなのである。一期の間に二度も当て逃げをして党紀委員会にもかけられずに支部長で居続けるなど正気の沙汰ではない。大御所ならいざ知らず、武井俊輔だぞ？ 話せば誰でもわかる、あの受け売り男をなぜそこまでして守るのか。

彼の言い訳が、百歩譲って真実としても、だ。もはや事ここに至っては真実など問題ではない。「誰も信じない言い訳」のために党を危険にさらすことが是とされるのか。

選挙戦になれば蓮舫、枝野、福山他野党の連中が入れ代わり立ち代わり来景し、この問題を街宣街頭するのだそつだ。嘘であれば良いなあ？ ガセであれば良いなあ？ 当然全国のニュースで流されるぞ。ヒフもまかれるだろう。ヒフもな、嘘かホントか怪しき満点の手製ヒフではなく、週刊誌をそのままゴビされたものが出回るぞ。この説得力とダメージは大きい。公認されずとも、支部長であれば、いや党籍があれば必ずこの当て逃げや飲酒運転のことを言われるだろう。なぜなら党に対する有効な攻撃だからだ。こういう話をすると、武井は決まって「どこからの話ですか。」という。だがどこからの話とかどうでもよいのだよ。そういう攻撃のネタが「ある」ということが問題なのだ。武井に守るほどの価値はないし、その武井のためにどれほどの同胞が落選するのか、考えているのか。

山口君。山口泰明君よ。貴公の息子の選挙区でもヒフはばらまかれるのだぞ。わかっているのか？ 河村さんよ。あんたもだ。あんたが二階派というのはみんな知っていて、二階さんが幹事長だという事もみんな知っている。こないだの宮崎での総務会で木田生ゴンが騒いだことだつて支部長たちは訝っている。やりすぎだよ木田生ゴンは。ほとんど総会屋だったそうじゃないか。そこまでして武井を守るその意気はよいが、それだけ多くの「不自然」を各所に植え付けていることにも留意してはいかかが。もちろんポピュリズムはよくない。よくないがさりとて、今の自民党への逆風を考えた時、果たして無視できるレベルなのかな？ というより、飲酒運転での死亡事故、そしてあおり運転での死亡事故等を経ての昨今の自動車運転を取り巻く状況の中で、この問題を放置することは、それ自体が致命的である。特に、女性の評判が厳しい。理由は先ほどのように子供が死んだりといろいろあつて女性の自動車交通についての見る目が厳しくなっているからだ。実にいろいろな場面でその評価を聞いているので自信を持って言える。女性の受けが非常に

悪い！諸君らも地元へ帰って武井とは言わず、自民党議員とは言わず、意見を広く聞いてみればよい。皆、口をそろえて「ダメ」を言うだろう。大きな声となっていないのは知らないから、ただそれだけだ。しかし、立憲などの野党はそれを「知らせる」のだぞ。そんな男を自民党は処罰もせず公認した。武井自身は保守王国の宮崎一区だからまだ当選する可能性はあるが、他の地区の何人もの犠牲を覚悟せねばならない。しかも、こういう問題にうるさいのはどこも一区である。肝心要の一区で無党派層から反発を食らうような支部長を立てるなどイッタイナニガアツタノカ実に不思議である。

さらに問題はあります。公平性の問題である。銀座で会食した議員三人は離党勧告の後、離党している。復党論があつても慎重なのは世論を気にして、だといふ。

世論を気にするならまず武井を除名せよ。順序が逆じゃ！

確かに緊急事態宣言中に会食するのは国民に我慢を強いている側からするとまずい。しかしである。当て逃げより悪いのか？気づかなかつたと言へば済む問題ではないのは前段で述べた通りだ。世論は「当て逃げをまかしている」と思っている。真実はどうかではなく、これは非常にまずい。積極的に疑いを晴らすこともしない。今更しても「警察に圧力をかけたんだろう。」などと思われるだけで効果なし。会食した三議員の直接の被害者はいないのに、当て逃げをした武井はお咎めなしではあまりに不公平である。当て逃げというのは場合によつては前科がつく罪なのに、党紀委員会さへ開かれぬ。知り合いの弁護士に今回のことを聞くと、「そこまでのことでは・・」といふのと「大問題だ」といふのがいる。しかし、法の専門家の意見ではなく一般人の感覚を忘れてはいないか。自民党は法律家の集団ではなく政治家の集団である。法に従つて処罰される前に自ら襟を正す姿を見せてこそではないか。そもそも選挙前にこんなことをやらすのを放置して、今後若手の育成ができるのか。

当て逃げも車検切れも自賠責未加入も事実であり本人も認めている以上、かばう理由が国民には理解されまい。しかも宮崎では左翼の策略で狙われたと小浦秘書と清水秘書が言っている。これに関しては録音もある。ネットの掲示板でも陰謀論が堂々と書き込まれておる。被害者の耳に入るのも時間の問題だ。早急に手を打たねば取り返しがつかぬこととなる。コロナがちょうどいいタイミングで収まってくれると思つているのか。コロナをコントロールできるのか？コントロールできぬコロナより、確実に対策できるこれらの問題を解決しないのは、もう党本部が機能不全に陥っているのではと心配になる。

諸君の賢明な判断を乞いたい。

## ホンマでっか!?

「またも、魔の3回生」  
俊輔

## 自民・武井議員「当て逃げ」事故 被害者が激怒した「不遜な態度」

6月8日、東京・港区の六本木交差点で当て逃げ事故が発生した。

車を運転していたのは、自民党・武井俊輔衆院議員（46・当選3回）の60代男性秘書だ。

車は交差点を左折する際、青信号の横断歩道を自転車で渡っていた自営業の50代男性と接触。しかしそのまま走り去ったため、男性が200メートルほど追跡して声をかけた。後部座席には武井議員も同乗していた。武井議員は事件発覚後、「被害に遭われた方に対し深くお詫び申し上げますとともに、誠意をもって対応させていただく所存です」とコメントした。



被害者は怒り心頭（事故の2日後、国会で囲み取材に応じた武井議員）

しかし被害者の男性は「誠意とはほど遠い対応でした」と明かす。

「事故の瞬間、プリウスを運転していた秘書と目が合い、私は『危ないだろう！』と大声で怒鳴りました。車はその時、スピードを緩めた。秘書は実況見分で『接触に気がつかなかった』とごぼけましたが、車のフェンダーには30センチほどの傷もあった。実況見分した警察官は『気がつかないはずないだろう！』『まずは被害者に謝りなさい』と怒っていましたね」

武井議員の対応も納得のいかないものだった。「議員は車から降りてきても無言のまま。私が『何か言葉はないのですか』と訊ねても、『私には関係ないので』と

言うばかり。『車の所有者か使用者であれば関係ないことはないでしょう』と問い質すと、『まあ……』とつぶやいて私と距離を置きました。

記者会見では、『お騒がせしてすみません』と深々と頭を下げていましたが、誰に対して謝っているのかと白けました。いまだ議員から直接の謝罪はありません（同前）

この事故で、武井議員の車は車検と自賠責保険が切れた状態だったことも判明した。

「事故の時、急に車をよけて体をひねったので、左足にねんざと打ち身、しびれがあります。すぐに病院で診察を受けましたが、武井議員から事後対応を任せられた弁護士は、治療費は立て替えておいてほしい。領収書は弁

護士事務所を持参するか、郵送して」と。上から目線にもほどがある（同前）  
武井議員にも取材すると、こう返答があった。

「弁護士を通じて議員本人が謝罪している旨を伝えてもらうとともに、加害者である運転者にも誠意をもって対応するように指示をしています。なお、被害者には、お見舞い金をお渡ししたい旨を告げましたが、残念ながら受け取ってもらえませんでした」（武井事務所）  
それを知った被害者はさらに憤る。

「お見舞い金」を言い出したのは事故から6日後のこと。「ポスト」が取材をかけ、慌てて態度を変えたのでしょうか。こちらが望んでいるのは医療費や慰謝料ではなく議員による、心からの謝罪。なのですが……」

「秘書がやった」は政治家の常套句だが、それでは被害者の怒りは収まらない。悪名高き「魔の3回生」がまた1人増えた。